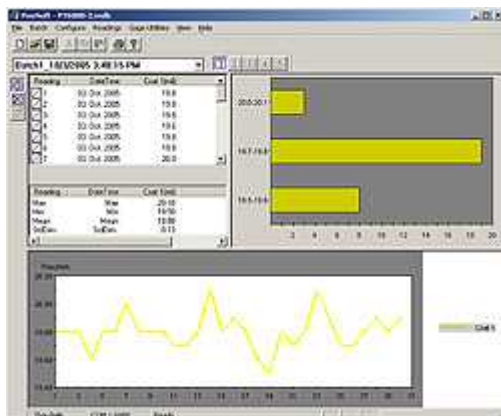


PosiSoft 取扱説明書 (ポジテクタUTG) 2.12版



＜目次＞	
はじめに-----	1
はじめてみましょう-----	1
計器のコンピュータ接続及びシリアルポートとの接続-----	2
バッチ名とアプリケーション名の変更-----	4
読み取りデータ／バッチの削除-----	6
注釈入力-----	7
他ソフトウェアへの読み取りデータ出力 -----	8
印刷-----	10
PosiSoft メニュー-----	14

H B S
株式会社 本田ビジネスシステムズ
〒221-0843 横浜市神奈川区松ヶ丘35-12 松ヶ丘ビル4F
電話：045-212-4090 ファクス：045-412-6773
電子メール：support@hbsl.co.jp

平成 19 年 2 月 22 日改定

はじめに

PosiSoftはポジテクタ6000、200、超音波厚さ計（UTG）、露点計、密着力試験器を使用して得られる測定値をダウンロード及び解析するためのツールです。測定値をPosiSoftにダウンロードすると、解析のためのファイルに格納され、ヒストグラム、データチャート・グラフ、および統計情報を作成します。本マニュアルはポジテクタ露点計を例として記載しておりますので、その部分はUTGと読み替えてご使用ください。

さあ、はじめてみましょう

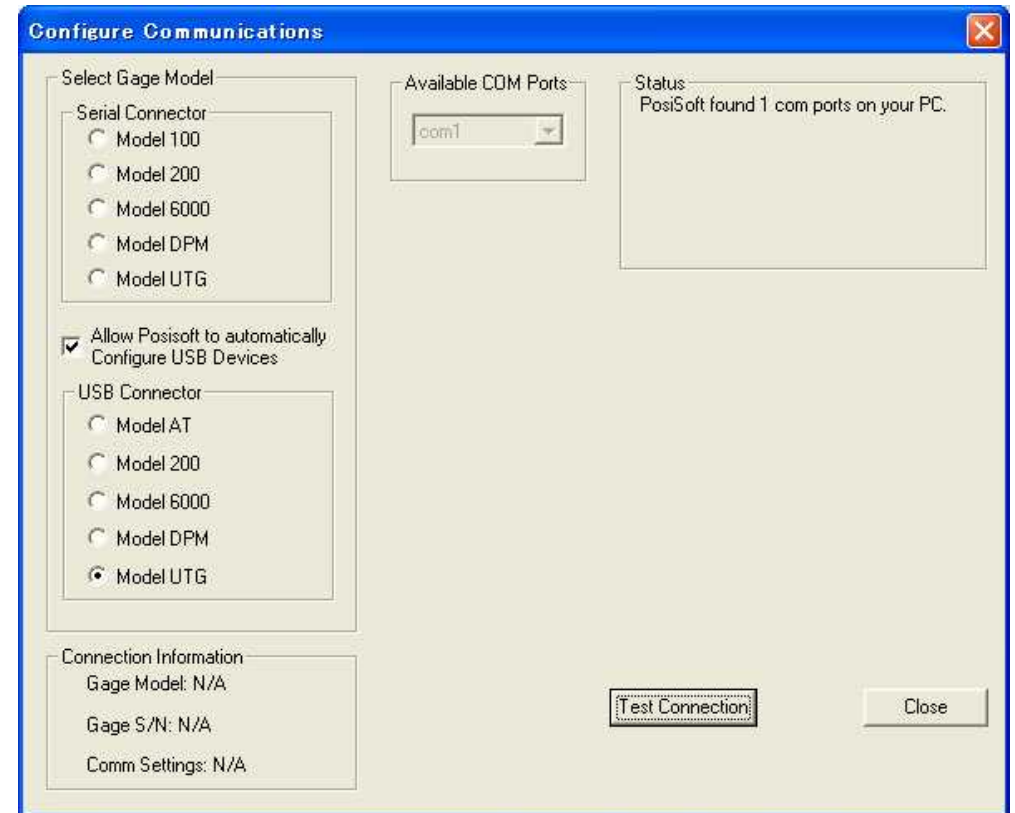
PosiSoftを使用するためには、次のステップに従ってください。

- PosiSoftを実行します。
- 添付のケーブルでコンピュータに接続します。
- Configure（構成）プルダウンメニューのGage（ゲージ）オプションから接続ポートを選択します。
- 計器のスイッチをオンし、計器との通信を始めます。
- Batch（バッチ）プルダウンメニューからDownload（ダウンロード）を選択します。
- 読みとり終了後、File（ファイル）プルダウンからSave（保存）を選択します。

計器とコンピュータとの接続

1)UTG-Std及びUTG-Advの場合

ポジテクタUTGは附属のUSBケーブルを使用して、USBポートを介してコンピュータと通信を行います。Configure(構成)メニューからCommunications(通信)を選択し、USB Connector下のPosiTector6000を選択してください。次に接続確認のため、Test Connectionボタンをクリックしてください。通信が行われると、Connection Information(接続情報)欄にポジテクタ6000のシリアル番号が表示されます。
注) 次回接続時、自動的にポジソフトの構成を行うには、Allow PosiSoft to automatically Configure USB devicesをチェックしてください。



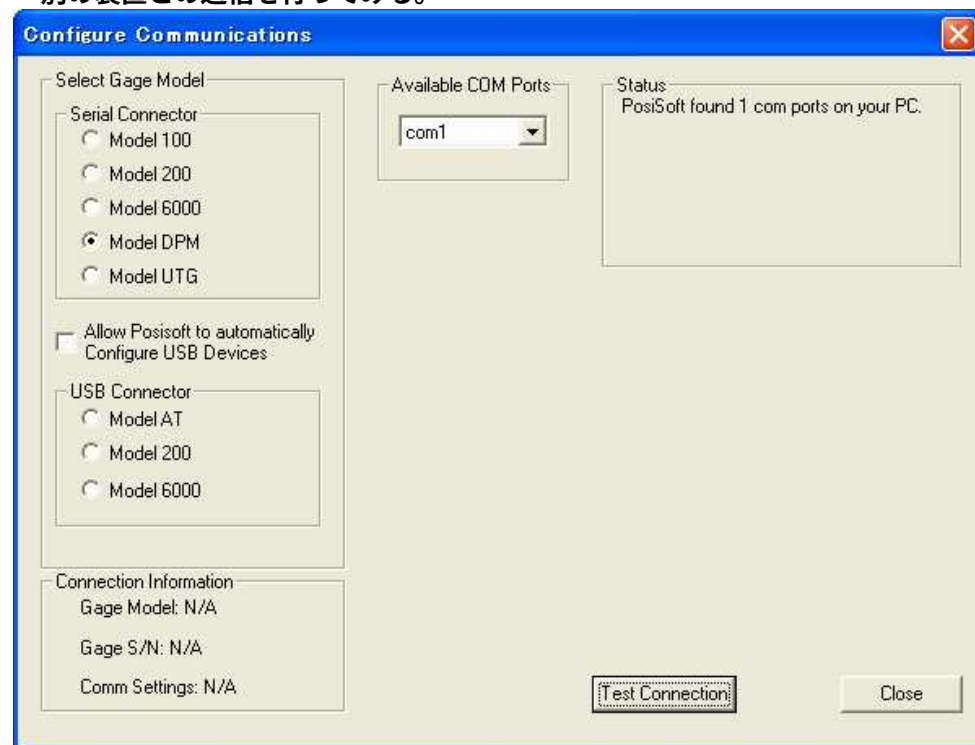
2) UTGの場合

計器はRS-232シリアルポートCOM 1からCOM4を通じてコンピュータと通信します。計器とコンピュータの9ピンシリアルポートを添付のケーブルで接続します。25ピンのシリアルポートのみの場合は、9 to 25 pin Adapter（9－25ピンアダプター）を購入して使用することができます。

測定値をダウンロードする前にCOMポートが選択されていなければなりません。Configure Menu（構成メニュー）からCommunications（通信）オプションを選択します（利用可能なCOMポートだけがハイライトされています）。COMポートをクリックします。計器接続を確かめるためにTest Connectionを選択するか、あるいは、テストしないで現在のCOMポートを使用する場合は、OKを選択します。通信が確立されない場合、利用可能なCOMポートを選択し、再テストしてください。

問題がまだある場合、以下を行ってください。

- ・計器が動作状態となっているかを確認する。
- ・ケーブル接続を再確認する。
- ・新しいアルカリ乾電池が計器に装着されているかを確認する。
- ・COMポートをアクティブにする方法について、コンピュータのマニュアルを参照する。
- ・別の装置との通信を行ってみる。



計器とコンピュータとの接続設定画面

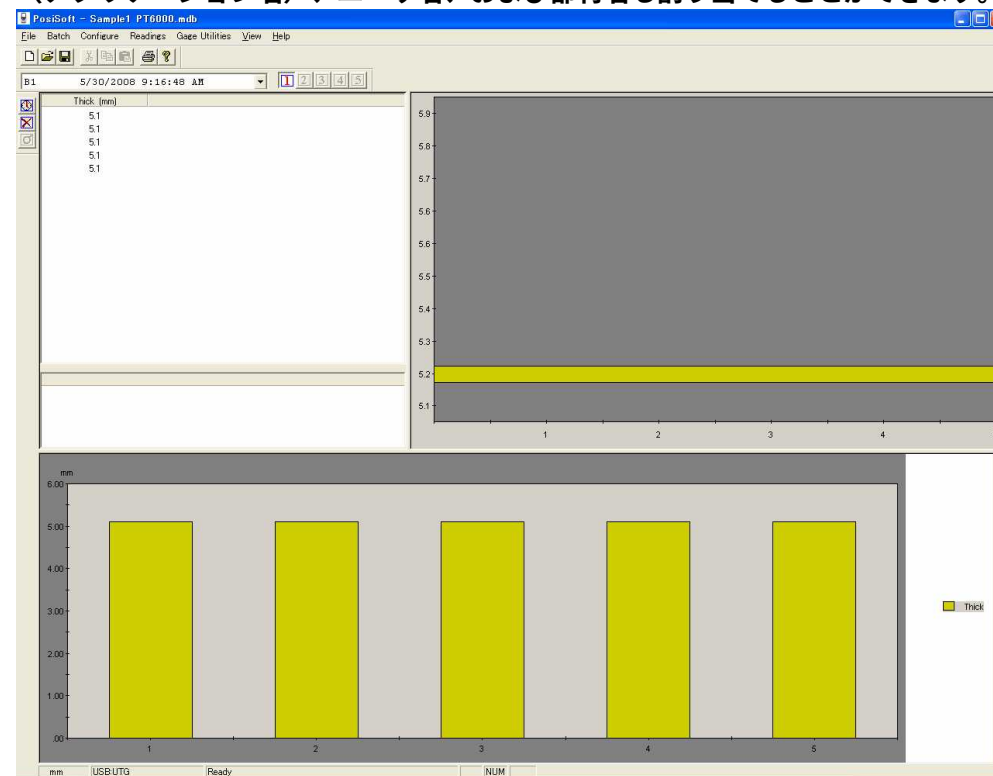
バッチのダウンロード：

Batch（バッチ）メニューから、Download（ダウンロード）を選択します。適切な計器モデルを選び、指示に従ってください。

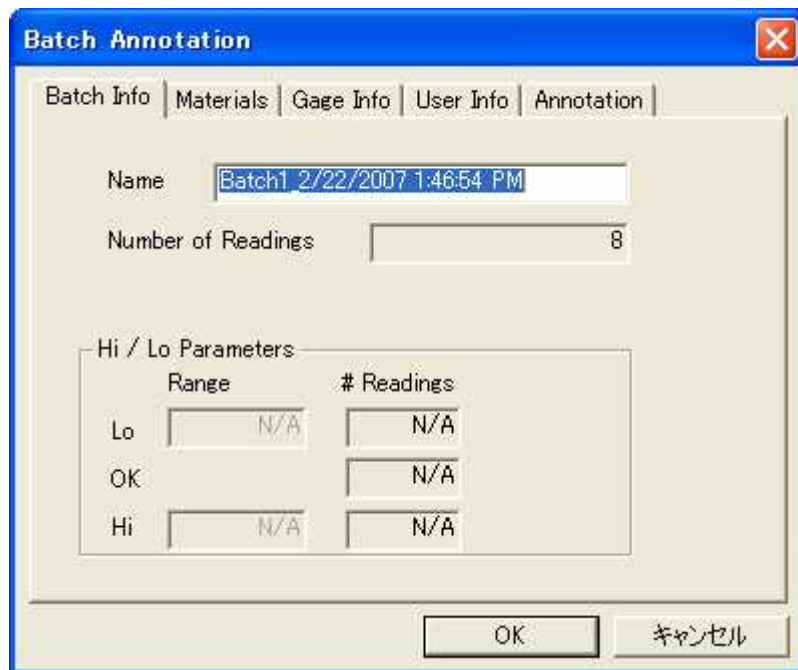
バッチダウンロード後の画面

バッチ、ユーザ、部材、アプリケーション名の変更：

PosiSoftに関するユニークな名前をバッチに割り当てることができます。そうすることにより、カスタマイズされた概要をみることができます。同様に、Application Name（アプリケーション名）、ユーザ名、および部材名も割り当てることができます。



Batch(バッチ)メニューでAnnotate(注釈)を選択することによって、Batch Annotation(バッチ注釈)ウィンドウがポップアップします。バッチ名を変えるには、単にBatch Info(バッチ情報)タブのName(名前)ボックスに名前を設定するだけです。また、Batch Annotation（バッチ注釈）ウィンドウで、適当なタブを選択することによって、User Info（ユーザ情報）、Material（部材情報）、およびAnnotations（注釈）を定義、修正、変更することができます。Gage info（計器情報）タブは計器モデルなどの計器情報を表示します。



Batch Annotation

Batch Info | Materials | Gage Info | User Info | Annotation

Name:

Number of Readings:

Hi / Lo Parameters

	Range	# Readings
Lo	N/A	N/A
OK	N/A	N/A
Hi	N/A	N/A

OK キャンセル

Annotate(注釈)選択時のポップアップ画面

読取データ/バッチの削除

個々の測定値：

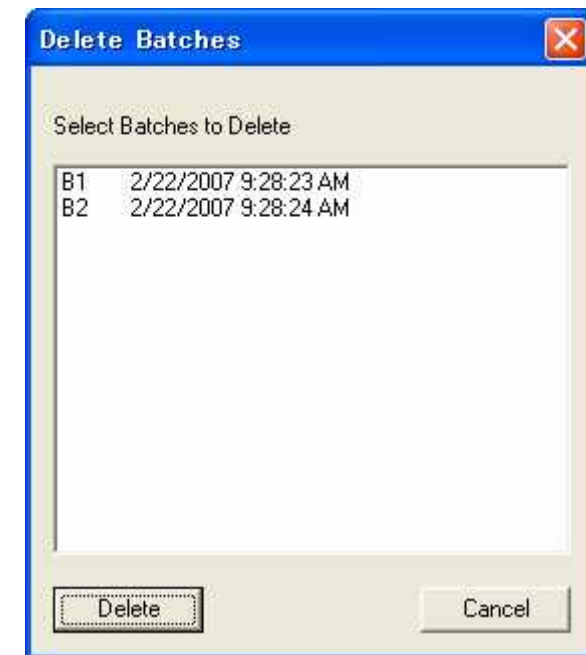
個々の測定値を削除するために、測定値上でマウスボタンを右クリックし、delete（削除）を選択します。

統計情報は、これを反映して、自動的に更新されます。

測定値の全バッチ：

全バッチを削除するために、メインメニューからBatch（バッチ）を選択し、delete（削除）を選択します。

次に、削除したいバッチまたは一連のバッチを選択し、delete（削除）をクリックします。



Delete Batches

Select Batches to Delete

B1	2/22/2007 9:28:23 AM
B2	2/22/2007 9:28:24 AM

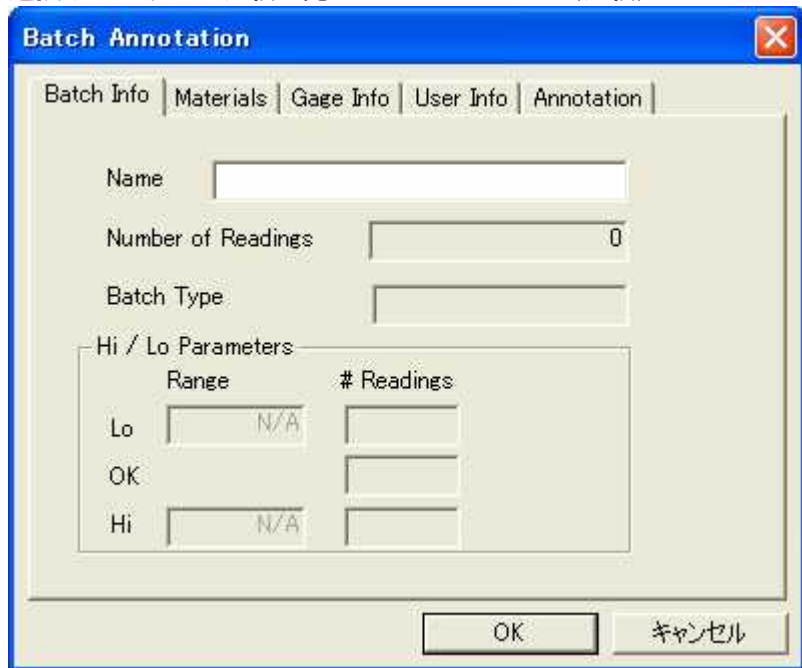
Delete Cancel

delete（削除）選択時のポップアップ画面

注釈の入力

Batch（バッチ）メニューで、Annotate（注釈）を選択、それからバッチ名を変更し、次に進みます。

選択したバッチの注釈を見るには、Annotation（注釈）タブをクリックします。



The 'Batch Annotation' dialog box has a blue title bar and a close button. It contains several tabs: 'Batch Info', 'Materials', 'Gage Info', 'User Info', and 'Annotation'. The 'Annotation' tab is selected. Inside the tab, there are input fields for 'Name', 'Number of Readings' (set to 0), and 'Batch Type'. Below these is a section for 'Hi / Lo Parameters' with a table-like structure:

	Range	# Readings
Lo	N/A	
OK		
Hi	N/A	

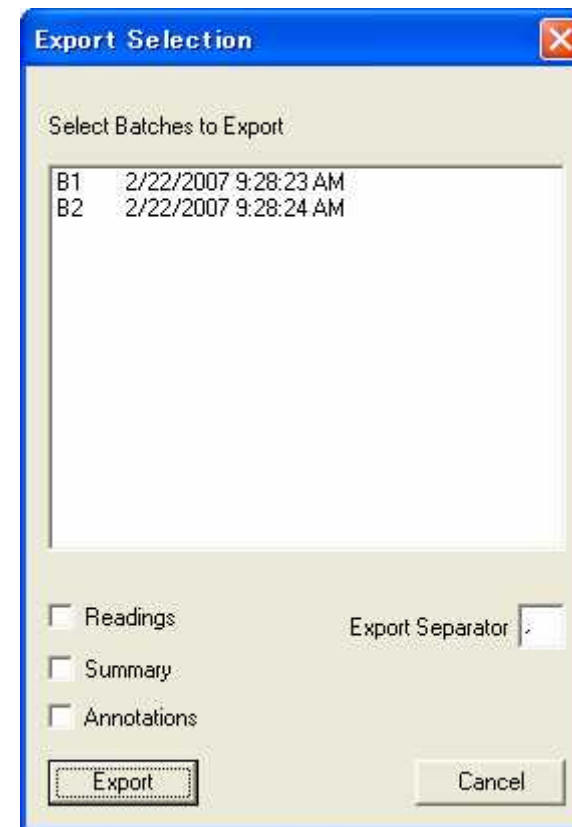
At the bottom are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

他ソフトウェア（Xcel,Wordなど）への読取データ出力

Batch（バッチ）メニューの使用：

個々あるいは一斉にバッチ情報を他のソフトウェアプログラムファイルに出力することができます。バッチを出力するには、PosiSoft BatchメニューでExport（エクスポート）を選択します。

表示されるウィンドウで、出力したいBatch（バッチ）をハイライトさせます。出力されるReadings(測定値)、Summary(まとめ)、Annotation(注釈)あるいはすべての情報のボックスを選択します。測定データを分離するためにExport Separator(エクスポート セパレータ)ボックスに文字を入れることができます。



The 'Export Selection' dialog box has a blue title bar and a close button. It contains a list box titled 'Select Batches to Export' with two entries: 'B1 2/22/2007 9:28:23 AM' and 'B2 2/22/2007 9:28:24 AM'. Below the list box are three checkboxes: 'Readings', 'Summary', and 'Annotations'. To the right of these is an 'Export Separator' dropdown menu. At the bottom are 'Export' and 'Cancel' buttons.

Export（エクスポート）選択時のポップアップ画面

デフォルトのセパレータは、カンマ（,）です。ヨーロッパのnumber format(数字形式)を使用する場合、小数点を表すカンマと混同しないよう他のセパレータを選択することをおすすめします。

Export(エクスポート)を押下すると、Save As(保存)がポップアップします。インポートされるソフトウェアに関係した拡張子をファイル名とともにタイプします。

(例えば、テキストファイルには***.txt、WORDには***.doc、Excelのようなスプレッドシートアプリケーションに対しては***.xls)

以下はExcel形式にて出力した例です。

B1 5/30/2008 9:16:48 AM

Batch Readings

Reading,Thick (mm),

1,5.1,

2,5.1,

3,5.1,

4,5.1,

5,5.1,

Batch Summary

Max,5.10,

Min,5.10,

Mean,5.10,

StdDev.,0.00,

Batch Annotations

Gage Model: UTG

Gage S/N: 611166

Probe Model: STD

Probe S/N:

User:

Part:

キーボード、マウスの使用：

他ソフトウェアへ出力するデータに対しての代替方法は、Shift(シフト)+矢印キー(または、マウス)でデータをハイライトさせ、次に選択するソフトウェアへコピー、貼付けを行います(マウス右クリックでの貼付)。

チャート(Chart)：

マウスとクリップボードを使用することによって、PosiSoftに表示されるチャートを他のソフトウェアにコピーすることができます。

DDEリンク：

測定が行われた後、測定値と情報を直接、リアルタイムに他のソフトウェアにリンクすることができます。

操作方法はReadings(測定)メニューを参照してください。

File Transfer Protocol (FTP) 露点計のみの機能

このオプションはユーザがデータセット値をリモート表示するために、ユーザの選択された間隔で、データセットをFTPサイトにパブリッシュさせる機能です。

・Listen to Gage ウェンドウで、「FTP」ボックスをクリックし、プルダウンメニューからConfigure (構成)を選択します。

・FTP Site Address (FTPサイトアドレス) ボックスのFTPサーバアドレスを入力します。

(例: 192.168.0.101) ftpあるいは/を含めないでください。

・FTP Site User Name ボックスにFTPサーバのユーザ名を入力します。

ユーザ名はanonymous (匿名) の場合もあります。

・FTP Site User Password (FTPサイトユーザパスワード) ボックスにFTPサーバに対するパスワードを入力します。

・Remote File (リモートファイル) ボックスにパブリッシュしたいファイルのパスとファイル名を入力します。

リモートファイルはフルパスあるいは相対パスを指定してください。
相対パスを指定するとき、/を含めないでください。

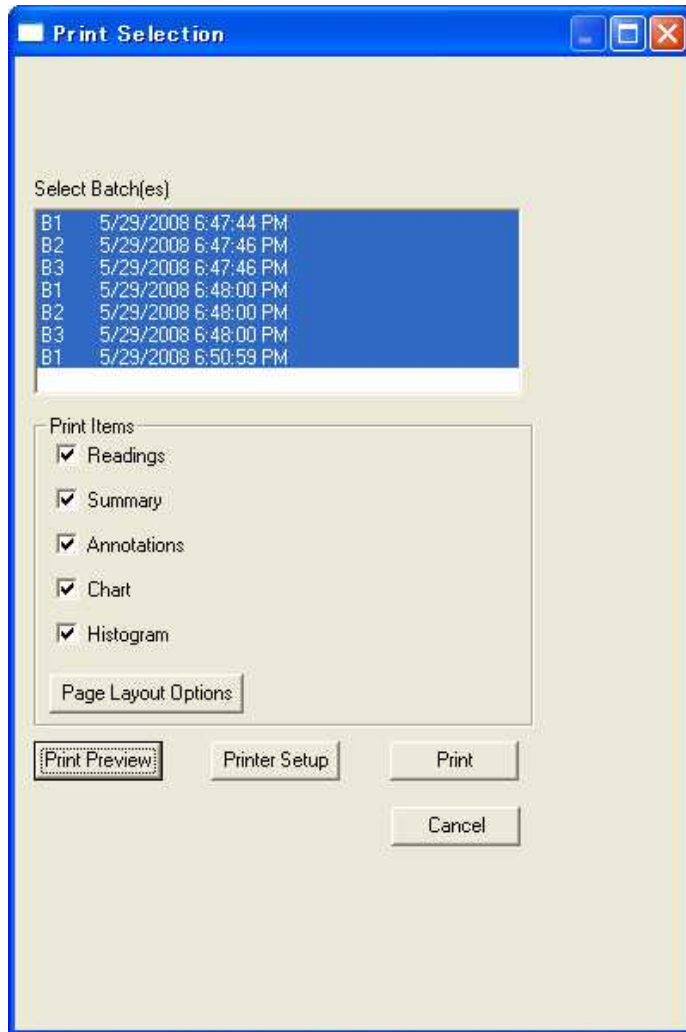
・Passive Mode (パッシブモード) は、Passive FTP転送を可能にする場合に、チェックしてください。Passive Mode (パッシブモード) はクライアントマシンがファイアウォールの後、動作する場合、必要な場合があります。

・Clear Log (クリアログ) は、各転送の後にデータセットをクリアする場合、チェックします。

注：FTPサーバに対して、priveledgesをリード／ライトする必要があります。
FTPアドレスかpriveledgesが不明の場合、システム管理者に連絡してください。

印刷

印刷を始めるには、「Standard Toolbar (標準ツールバー)」で印刷アイコンをクリックするか、Fileメニューで、Print (印刷) を選択します。
プリンタのセットアップウィンドウがポップアップしたら、プリンタ、印刷方法を選択します。



印刷設定画面

印刷の選択:

Print Selection(印刷の選択)ダイアログのSelect Batch (選択バッチ) ボックス上で、印刷したい1 バッチまたは複数のバッチを選択します。

印刷したいバッチを単に、ハイライトさせることによって、それらを選択することができます。

Print Items(印字項目)リストで、印刷するバッチの情報を選びます。

- Readings (測定値)
- Summary(まとめ)
- Annotations(注釈)
- Chart(チャート)
- Histogram(ヒストグラム)

Page Layout Options(ページレイアウトオプション):

Page Layout Options(ページレイアウトオプション)ボックスをクリックします。
このウィンドウでは、ドキュメントのヘッダーとフッターを設定することができます。

それらを設定するには、挿入したい位置のボックスにヘッダーとフッター名を設定します。

印字する各バッチに対して、ヘッダーとフッターを変更させることも可能です。

例えば、次のようにセットアップした場合：

1. ページの先頭の左欄にヘッダーとして、日付
2. ページ下部の中央にページ番号
3. 多重カラム (複数の測定データ)
4. 異なるページにチャートとヒストグラム(印字のスペースが大きくなる)
上で説明されたように印刷するためには、以下のようにセットアップします。

1. Header left(ヘッダーの左欄)に%Dを設定
2. Footer Center(フッター中央欄)に%dを設定
3. Multi column outputのタイトルのボックスを選択
4. Chart and Histogram on same pageオプションのチェックをはずします。

Printer Setup(プリンタセットアップ):

プリンタ、紙サイズ、および位置を選択します。

Print Preview(印刷プレビュー)：
印刷されるページのプレビューを表示します。

印字品質:

チャートとグラフの印字に問題がある場合、次のステップ（Windows95,98を使用している場合）で、チャートとグラフの印字品質を改善できます。

- ・マウスで、Start（スタート）アイコンをクリックします
- ・Settings（設定）メニューを選択します
- ・Printers（プリンター）メニューをクリックします
- ・使用したいプリンタファイルのハイライト及びオープンします
 - ・Printer（プリンタ）プルダウンメニューで、Properties（プロパティ）を選択します
- ・Graphics（グラフィック）ファイルをクリックします
- ・Use raster graphics（ユーザ ラスター グラフィック）を選択、次にApply（適用）をクリック、さらに「OK」をクリックします
- ・「Printer」と「Printers」ファイルのクローズします

PosiSoftの各メニュー
メニューは以下のとおりです。

File（ファイル）メニュー
Batch（バッチ）メニュー
Configure（構成）メニュー
Readings（測定）メニュー
Gage Utility（ゲージユーティリティ）メニュー
View（表示）メニュー

File（ファイル）メニュー
New（新規作成）
新しい無題のファイルを作成します。

Open（開く）
既存のファイルを開きます。 MDB拡張子ファイルのみ、表示されます。

Save（保存）
ファイルにアクティブなデータを保存します。データファイルは、指定されない場合、MDB拡張子で保存されます。

Save As（名前をつけて保存）
拡張子が指定されない場合、.MDB拡張子で、アクティブなデータを保存します。

Print（印刷）
プリンタの選択、あるいは構成のために、Windows Print Setupを動作させます。

Exit（終了）
プログラムを終了します。

Batch（バッチ）メニュー
Download（ダウンロード）
計器のメモリから測定データをダウンロードします。計器が接続状態の場合、PosiSoftは計器のバッチデータをダウンロードします。

Annotate（注釈）
バッチ名、アプリケーション名、Hi/L o limits（上下限）を変更します。Annotations(注釈)と同様にBatch(バッチ)とApplication Names(アプリケーション名)の変更も参照してください。

Select Current(現在の選択)

バッチの切り換えができます。現在のバッチは、PosiSoftツールバーに表示されています。

Export(エクスポート)

現在のファイルをWindow クリップボード、または、ユーザの指定されたファイルに出力します。

Export Readings(読取データの出力)を参照してください。

Delete (削除)

Delete Batches (バッチの削除) ウィンドウで選択されたバッチを削除します。

Configure (構成) メニュー

Communications (通信)

接続ポートを設定するために構成ウィンドウを開きます。Test Com Port(テストCOMポート)をクリックすることによって、選択されたポートをテストすることができます。

テスト機能を使用するとき、計器が動作状態にあることを確認してください。

計器とコンピュータとの接続を参照してください。

Units(単位)

単位をThou/ミルからミクロンに切替えます。あるいはミクロンからThou/ミルに切替えます。

Chart Options(チャートオプション)

PosiSoftの下部ウィンドウに表示されたチャートは、収集されたデータを表示する3種類のレイアウトがあります。それぞれの厚さ測定データはY軸に、測定データ数はX軸に表示されます。1つ以上の被膜がある場合、それぞれが異なった色で表されます。

・折れ線グラフ：各測定データは点によって示されます。点は、接続されているので、容易に傾向を見つけることができます。

・棒グラフ：このモードでは、測定データはバーで表示されます。多重被膜の場合、バーは、重なるの異なった色となります。

・積み重ね表示棒グラフ：棒グラフと同様、多重測定データの場合、積み重ねられます。

ただ一つの被膜しかない、BarモードとStackedモードの間には、違いはありません。

Histogram Configuration(ヒストグラム構成)

Histogram Configuration)(ヒストグラム構成)メニューを選択すると、ヒストグラムの測定データ表示方法を変更させるダイアログが表示します。

最初に、ヒストグラムは、測定データ値とその相違に応じて、bins (バー) の数を計算します。ヒストグラムで表したいバーの数を入力することによって、異なったバー数をもつことを選択できます。変更をアクティブにするためには、Force all histograms to use this many bins

チェックボックスをチェックする必要があります。それを行った後、PosiSoftは設定したバー数を有効とします。

Number Formats (ナンバー フォーマット)

数値の形式を変更します。

Date Formats (日付フォーマット)

テーブルのDate / Time欄のフォーマットをカスタマイズする際に使用します。

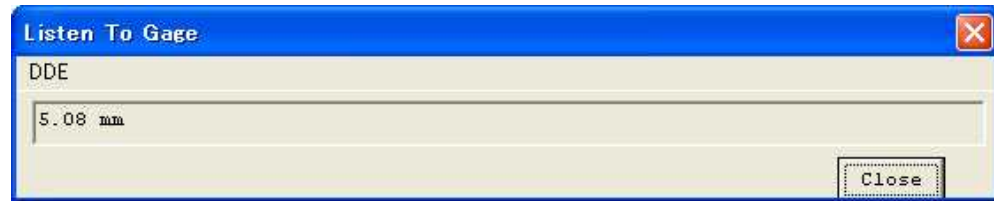
Language (言語)

PosiSoftメニューオプションに必要な言語に変えます。

Readings (測定) メニュー

Listen to Gage (計器読み取り)

これは計器へのリアルタイム接続です。測定データが計器によって取得されたときコンピュータモニター上に表示されます。



DDE Link

このオプションは、測定データが計器によって取得された時、Microsoft Excelなどのスプレッドシートソフトウェアプログラムに、リアルタイムでの表示を行います。次の方法で、リンクを初期化し、設定を行います。

- Readings (測定) プルダウンメニューのListen to Gage(計器読み取り)メニューで適切なモデルを選びます。

- Listen to Gage (計器読み取り) ウィンドウで、DDEボックスをクリックします。
- 適切な「コピー」方法を選択します

Copy data string モデル6000、100、UTG、およびDew Point Meter

「Copy data element」 モデル100、UTG、およびDew Point Meter

- 指示プロンプト (Now go to the destination and select Paste Special from the Edit menu) が表示しましたら、OKを押下し、続いて、スプレッドシートセルへ貼りつけます。

- Listen to Gage (計器読み取り) ボックスが開いている状態で、計器の読み取りを行います。

- 測定データは、Listen to Gage (計器読み取り) ボックス、および計器のLCD同様、スプレッドシートセルに表示されます。

.

計器による別の測定を行ってください。後の測定が前の測定を置き換えますので注意してください。

スプレッドシートの後の行上に多重測定データを表示させたい場合、スプレッドシートにおける「マクロ」プログラムを使用する必要があります。

表計算プログラムに関してはマニュアルを見てください。

Listen to Gageウィンドウのスクリーンキャプチャーは キーボードの"Alt" & "Print Screen"を同時に押下することにより、実施できます。

FTP (Dew Point Meter のみ)

このオプションはユーザにデータセット値のリモート表示のために、デューザの選択された間隔で、データセットをFTPサイトにパブリッシュさせます。

- Listen to Gage(計器読み取り)ウインドウで、FTPボックスをクリックし、プルダウンメニューから「Configure(構成)」を選択します。

- FTP Site Address(FTPサイトアドレス)ボックスにFTPサーバアドレスを入力します。

例: 192.168.0.101)ftpあるいは／を含めないでください。

- 「FTP Site User Name 」ボックスのFTPサーバのユーザ名を入力します。

(ユーザ名はanonymousを入力しても良い場合もあります)

- FTP Site User Password(FTPサイトユーザパスワード)ボックスにFTPサーバに対するパスワードを入力します。

- Remote File(リモートファイル)ボックスにパブリッシュしたいファイルのパスとファイル名を入力します。

リモートファイルはフルパスか相対パスとして指定してください。

相対パスを指定するとき、／を含めないでください。

- Passive Mode(パッシブモード)は、Passive FTP転送を可能にする場合、チェックしてください。

Passive Mode(パッシブモード)はクライアントマシンがファイアウォールの後、動作する場合、必要な場合があります。

- Clear Log(クリアログ)は、各転送の後にデータセットをクリアする場合、チェックします。

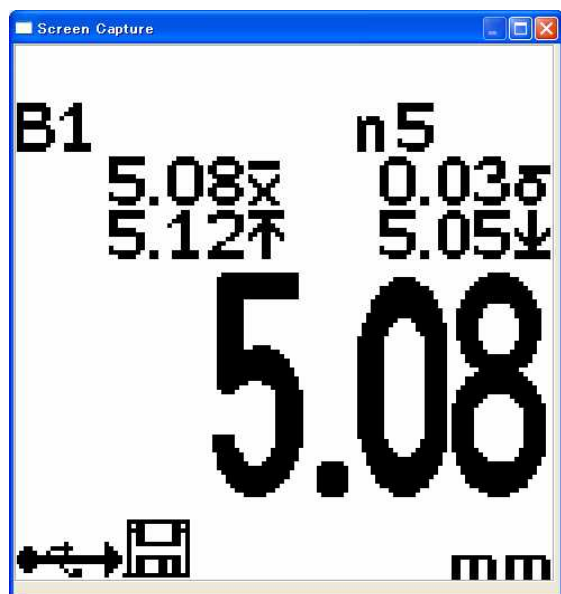
注：FTPサーバに対して、priveledgesをリード／ライトする必要があります。

FTPアドレスがpriveledgesが不明の場合、システム管理者に連絡してください。

Gage Utility (ゲージユーティリティ) メニュー

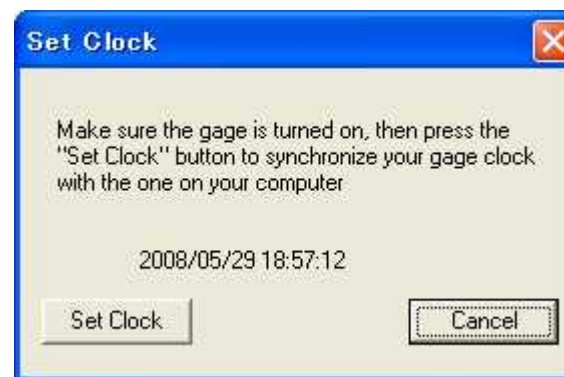
Screen Capture(スクリーンキャプチャー)

この機能は、計器の液晶ディスプレイ画面表示をコンピュータのクリップボードにキャプチャーします。表示内容がクリップボード上にいったん取得されると、Microsoft Word、Excelなどのような他のソフトウェアに対して、切り取り、コピー、貼り付けができます。例えば、レポートと印刷として。Utilities(ユーティリティ)プルダウンメニューで、Screen Capture(スクリーンキャプチャー)を選択します。指示に従って、計器の液晶ディスプレイ画面表示をダウンロードします。



Set Clock(時計設定)

Set Clock(時計設定)を使用して、計器の時計にコンピュータ上の現在の時間を設定します。



View（表示）メニュー

ウィンドウの標準メニュー。このメニューでPosiSoftの表示をカスタマイズできます。

Standard Toolbar(標準のツールバー)

Standard Toolbar(標準のツールバー)を有効にするか、または無効にします。

8

PosiSoft Toolbar(PosiSoftツールバー)

画面に表示されるPosiSoft Toolbarを有効、または無効にします。有効にすると、現在のバッチとそのバッチに関係した被膜の層数が表示されます。

Reading Toolbar(測定のツールバー)

画面に表示されるReading Toolbar（測定のツールバー）を有効、または無効にします。

有効にすると、Show Time（時間表示）、Show Deleted（削除表示）、Show

StandardDeviation toggle（標準偏差トグル）ボタンが表示されます。

Histogram（ヒストグラム）

ヒストグラムの表示有無を示します。

Status Bar（ステータスバー）

PosiSoftの設定と現在の状態を表示します。ステータスバーはPosiSoftの下部にあります。

接続ポート、どんな単位が使用されているかに関するユーザ情報などがあります。